

第12回 大阪言語学談話会

第108回 待兼山ことばの会

事前登録不要・どなたでもお気軽にご参加ください！

2025年7月5日（土） 13:30

大阪大学 豊中キャンパス
言語文化A棟 2階大講義室

阪急電車宝塚線 石橋阪大前駅から 徒歩15分
大阪モノレール 柴原阪大前駅から 徒歩10分

会場へのアクセス情報は[こちら](#)



1. 五所 万実（目白大学）

「理論で読み解く言語直感

ー商標の類否判断における言語学的アプローチ」

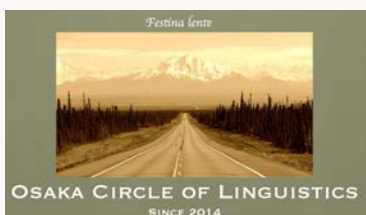
本発表は、商標のことばをめぐる問題に言語学の理論や方法論を応用する試みである。特に、混同を招くほど類似する商標であるか否かという「商標の類否」問題を取り上げる。商標の登録審査や侵害訴訟の場面では、判断権者（裁判官や審査官）や当事者による言語直感に基づく判断が少なからず介在する。実務においては、こうした判断に対するより客観的な裏付けが課題となっている。そこで本研究では、商標の類否判断における再現性や予測可能性を高めるべく、類否を左右する商標の「要部性」や「分離性」について、「顕著性」や「解析性」といった言語理論を用いて考察する。言語直感を理論的に捉え直すことで、言語学が法実務に寄与し得る可能性を探るとともに、その射程について検討する。

2. 浅尾 仁彦（NICT 情報通信研究機構）

「生成AIは言語学にとって何を意味するのか？ 議論の動向をさぐる」

大規模言語モデル（LLM）を用いた生成AIの成功は、それが言語学にとってどのような帰結をもたらすかについても議論を巻き起こしている（Piantadosi 2024; Futrell and Mahowald 2025）。この発表では論点を整理しながら、(1)生成AIの能力は基本的には用法基盤的な言語観を支持する材料であると言えるということ、(2)また、生成AIは言語学者による記述や理論構築の価値を揺るがすものではなく、むしろそれらに対するより多様なアプローチを可能にするものであることを議論したい。

- Steven T. Piantadosi (2024). Modern language models refute Chomsky's approach to language. In Edward Gibson and Moshe Poliak (eds.) *From fieldwork to linguistic theory: A tribute to Dan Everett*. Language Science Press. pp.353-414. <https://langsci-press.org/catalog/book/434>
- Richard Futrell and Kyle Mahowald (2025). How Linguistics Learned to Stop Worrying and Love the Language Models. arXiv preprint. <https://arxiv.org/abs/2501.17047>



【お問い合わせ】 松浦幸祐（大阪大学）
matsuura.kosuke.cjlc@osaka-u.ac.jp



大阪言語学談話会HP